

ホームカミングデー 精神保健福祉分野②分科会 (阿部正孝先生)

<参加者が抱えている現状と交流会報告>

・報告会では初期生が多く、在学中苦労したが、現在に繋がる大変良い学びになっていることを伝え合う。現在は、統合失調症を持つ利用者へのボランティアに取り組んでいる方、就労継続支援事業所で勤務する方、行政の仕事に携わっている方、ガイドヘルパーの方、学童指導員をされている方など13名の卒業生が参加。

・高齢の為、PSWを目標に出来ず残念である。しかし、現在サロンを作り、高齢者や地域の色々な人が生きがい、居場所、目標を作る支援をしている。人との出会いが何よりの財産になっている。

・精神障害を抱えているが、企業の受け入れ先が無い、自分たちの行く先が無い。
→阿部先生より そのような思いを抱えているのなら、自分で居場所を作ればいい。精神の仕事を目指すのであれば、自分で志を持って取り組んでみては。

・学童指導員をしているが、片親がいたり、支援学級の子がいたり、抱えている人数も多く、対応が難しい。同じく、子供に携わる仕事をしている方からも、親に発達障害や精神障害、地域特性などがあり、障害を持つ子供の居場所や受け入れが少なく、十分な支援が受けられない状態があるとのこと。

<阿部先生より>

- ・2012年12月、精神障害者を対象とした病院と地域をつなぐ施設として、「やどかりの里」を創設した谷中輝雄さんが亡くなった。民間人として日本初の取り組みであり、自己選択・自己決定の尊重は、精神障害者支援にとっての「命」である。
- ・女川を見に行っているが、仕事もなければ住む家もない。これ以上悪くならないように支援が必要であり、PSWは対策をしている。
- ・臨床家は忙しい仕事をしているから、良い臨床家になれるわけではない。今の仕事、環境の中で、1~2年ごと振り返りながら勉強して行ってほしい。

◆参加者からは、「後援会報」は大学の近況を知るのに役立つが、卒業生の消息を知る手立てがないため、定期的に情報を交換し、研鑽を図るための小規模な同窓会グループの立ち上げを望む声があがった。